

2018年度 第1四半期決算説明会 主な質疑応答

日時 : 2018年7月27日(金) 10:00~11:00

全 体

Q: 1Qの営業損益が対計画で20億円強上振れているとのことだが、セグメント別の状況は。

A:

- ・ 電子デバイス、エネルギーソリューション、インダストリーソリューション、食品流通が上振れ。特に電子デバイスの上振れが大きい。

Q: 昨年度に2018年度中期経営計画の利益目標を達成しているが、来年度以降の計画は。

A:

- ・ 2023年度を最終年度とする5カ年の中期経営計画策定に着手している。従来、売上高1兆円、営業利益率7%を目指すとしてきたが、現在の状況を踏まえると営業利益率は8%程度に引き上げること考えている。また、電子デバイスが好調であるため、電子デバイスの売上高構成比は、今までの想定よりも引き上げる計画になる。

パワエレシステム

Q: ファクトリーオートメーションの受注・売上について、スマホ需要の減速影響は見られるか。足元の状況と今後の動向は。

A:

- ・ スマホ関連の比率が高くないこともあるが、現時点で影響はなく、今後の受注・売上にも影響はないと見ている。1Qの受注高は、対前年10%強。対計画上振れ。
- ・ また、船舶用スクラバ等のシステムの受注も好調に推移している。

Q: ファクトリーオートメーションについて、中国の需要が強い分野は。

A:

- ・ 中国の食品包装機械等の内需向けの需要が強い。

Q: ファクトリーオートメーションにおける製品別の今後の需要動向の見通しは。

A:

- ・ 低圧インバータは日本、中国、アジア、北米で対前年受注増。国内では対前年で10%以上の受注増、北米ではオイル&ガス市場向けを中心に需要が伸びており、アジアにおいても商流開拓が進み受注が増えている。中国も順調だ。器具は国内の工作機械メーカー向けを中心に対前年、対予算ともに受注が増えており今後もこの傾向は継続する見通し。

Q：ファクトリーオートメーションの在庫の状況は。

A：

- ・流通在庫を含め、在庫は対前年で減少し問題はない。

Q：船舶用スクラバの事業規模は。また、引き合い状況は。

A：

- ・当社は中小規模の船舶（エンジン出力：5MW～16MW）をターゲットとし、船舶用スクラバの単価は1～2億円。
- ・昨年度は10セット受注した。さらに直近までに10セット近い受注を獲得しており、年間見通しの20セットを上回るペースとなっている。引き合いもその倍となっている。
- ・9月の一号機出荷に向け、千葉工場の生産体制を整えている。

発 電

Q：国内では11.25万kW未満の石炭火力発電の新設を規制する動きがあるが、中容量を得意とする富士電機に影響はあるか。

A：

- ・足元で影響は出ていない。
- ・火力発電市場を見ると、大容量の市況が厳しいため、中容量の競争環境は厳しくなると見ている。海外市場では特に東南アジアや、今後はアフリカ市場向けに取り組んでいく。

電子デバイス

Q：電子デバイスの1Q実績について、対前年、対計画の為替影響は。

A：

- ・対前年で、売上高は▲2億円程度、営業損益は影響なし。
- ・対計画で、売上高では+1桁億円後半、営業損益では+2億円程度。

Q：電子デバイスの1Q営業利益率の内訳は。

A：

- ・電子デバイスの1Q営業利益率は13.6%。内訳は非開示だが、半導体、ディスク媒体とも10%超の営業利益率となった。

Q：パワー半導体の1Q受注の対前年同期、対前年4Qの伸長率は。また、6～7月の状況は。

A：

- ・1Q受注高において、電子デバイス全体は対前年+11%となり、パワー半導体は対前年+6～7%、対前年4Q+20%程度。対前年で見ると、パワー半導体よりもディスク媒体の受注が若干増加した。
- ・6月頃からスマホ生産設備向けの需要減速が見られ、7月もその状況に変化はない。いつまで続くかは不透明だ。

Q：パワー半導体の1Qにおける対前年4Q需要増の要因は。また、2Q以降の見通しは。

A：

- ・季節要因として例年4Qは中国の春節影響で需要が落ちる傾向にある。加えて足元では自動車向けの売上が順調に増えてきている。

- ・ 2Q は、スマホ生産設備向け需要は減速傾向だが、中国の産業分野向け（インバータ、エアコン等）需要が好調なため影響は軽微。2Q 売上高は、為替影響を除けば 1Q に対し横ばい程度の見込み。
- ・ スマホ生産設備向け需要が下期にどの程度回復するかは精査中。

Q：パワー半導体におけるスマホ生産設備向けの比率は。

A：

- ・ 5%未満とみている。

Q：工作機械向けパワー半導体の状況は。

A：

- ・今のところ受注は高水準が続いており、工作機械メーカー各社からは、ロボット増産の話をいただいている。

Q：IGBT のチップ、モジュール、MOSFET の製品別の需要動向を教えてください。

A：

- ・どの製品も需要は旺盛だ。IGBT は産業、自動車向けで需要が増えている。MOSFET は全般的に品薄感があり、若干受注を制限せざるを得ない状況も発生している。

Q：ウエハ高騰に伴い、価格の考え方は。

A：

- ・材料価格が高騰しているため価格は据え置き、出来れば値上げしていく。

Q：2Q 以降の営業利益率の見通しは。

A：

- ・1Q は売上・生産増が効いており、営業利益率は高い水準となった。設備投資はこれから実施するため、減価償却費増加に伴い 2Q 以降の営業利益率は若干落ちるが、10%程度は維持していきたい。

Q：パワー半導体の生産能力が上がるタイミングは。

A：

- ・下期からの前工程の生産能力拡大に向け準備を進めている。

Q：EV 向けパワー半導体の生産設備投資の状況は。

A：

- ・来年度からの顧客への本格供給開始に向けて後工程の量産準備を進めている。

Q：ディスク媒体の 1Q の売上枚数は。

A：

- ・1Q の売上枚数は 12 百万枚。アルミ媒体の需要が増加した。

食品流通

Q：中国自販機の足元の出荷台数と今後の見通しは。

A：

- ・今期は 35,000 台の出荷を予定しており 1Q では 7,000 台強出荷している。

Q：中国自販機市場における競合環境は。

A：

- ・中国市場におけるシェアは缶・PET 自販機で 70%程度。食品やカップ自販機等の自販機も含めると 40%程度のシェアとなっている。缶・PET 以外の機種でローカルメーカーと競合する状況になってきている。

以上